

保健環境センターが実施したインタビューとパトロール —構内の不法投棄物と蜂の巣—

渡邊 賢司¹⁾

I. 経緯

私は、今年度から財務課調達第一係の仕事をしております。調達第一係は、請負業者との契約業務を担当していることもあり、様々な相談が寄せられるのですが、構内に不法投棄物があった場合も同様で、その対応を求められます。私も発見報告を受けるとその場所に出向き、かたづけなどをしてきましたが、その数の多さに数ヶ月が過ぎた頃には、大学としてより積極的に対策を講じるべきではないかと考えるようになりました。そこで当然自分一人ではどうすることもできないので、保健環境センターへ相談してみることにしました。

保健環境センターの所内会議で検討したところ、確かに構内に不法投棄されているのを見かけることはあったが、どこかの部局で積極的に対応しているという話は聞いたことがないということでした。対応することの難しさの考えるとなかなか手を出しづらい問題ではあるが、それでは何も改善しないので、まずは保健環境センターの職員だけでも行動してみようということになり、不法投棄の現状を確認するため構内をパトロールすることになりました。さらに、これを機会に構内環境の問題を少しでも把握するため学内関係者にインタビューすることにもなりました。

また、不法投棄物とは別に私は夏場に発生する蜂の巣駆除についても相談を受けていたので、早期発見することで少しでも危険を回避できるのではないかと考え、同時に取り組んでもらえるよう提案し、了解を得ました。

II. インタビュー

保健環境センターの職員15人を4グループに

分け、パトロールを実施する前に学内関係者へのインタビューをおこないました(参照)。大人数では相手も気を遣ってしまうので少人数でインタビューし、雑談の中で生の声が聞けるよう工夫しました。

[インタビューの対象]

- 清掃業者
- 警備員
- 総務課総務係(大学全体の窓口として)
- 施設課(他に不法投棄物・蜂の巣についての相談をもちかけられやすい部局)
- 学生支援課(学生生活、学生寮、国際交流会館、部活・サークル活動を担当)
- 学部支援課(研究室等の管理や教官対応を担当)
- 衛生管理者(目的は違うが毎月構内をパトロールしている)

[インタビューの主な内容]

- 適切な場所に捨てられていないゴミのかたづけをしたことがある。
- 飲みかけのまま空き缶を捨てるなどゴミ捨てのマナーが悪い。
- カラスがゴミ箱を荒らす。
- 蜂の巣を発見し、巣の駆除をしたことがある。
- 実際に蜂に刺されたことがある。
- 構内全体では放置自転車が一番に目につく。
- 大学の敷地と周辺の市道の境に頻繁に不法投棄される。
- 外部からゴミが持ち込まれている。(電化製品、粗大ゴミ、自転車等)
- 学生の施設を利用するマナーが悪い。一方で、自分たちの身に覚えのないゴミの処分をさせられることがあると学生から苦情を受けたことがある。
- 周辺住人から学生の生活ゴミの排出マナーが悪いと苦情を受けたことがある。

¹⁾ 愛知教育大学財務課調達第一係
(保健環境センター兼務)

[インタビューの結果]

おおよそ予想どおりの内容でしたが、どなたからも苦勞話が聞け、難しい問題だとは思いますがなんとかしたいとの声が聞けました。特に、注意を促す広報活動を求める要望が多くありました。

Ⅲ. パトロール

4グループがそれぞれ8月中に構内を2時間程度パトロールしました(参照)。いずれのグループも夏の強い日差しの中、蚊に刺されながらも奮闘しました。

[パトロールの結果]

構内にある自転車を除く不法投棄物は、既に年度当初に対応していたこともあって想像していたよりも少なかったのですが、放置自転車はたいへん目につきました。蜂の巣もいくつか発見されましたが、特に危険性が高いスズメ蜂のものは発見されませんでした。

後日、パトロールの際に写した写真で作成したポスターを学内に掲示しました。

[パトロールに関する主な感想]

- 放置自転車は、自転車置き場を占領するだけでなく大学の景観を悪くしている。
- 放置自転車の対策として、自転車も自動車同様入構許可制にしてみてもどうか？(取り扱いが煩雑になるだけで状況が改善されるとは思えない。)
- 部活・サークルで使用しなくなった物品の始末が悪い。世代がかわっていく中でどこの所属のものかわからなくなってしまっているようである。また、学生もどこからも指示がないのでどうしたら良いのかわからずそのままにしているようである。
- 学生のマナーについて対応することは難しいと思うが、『正しいマナーを身につけた卒業生』を社会に送り出すのも大学の役目なのでなんとか教育すべきである。
- 不法投棄物があった場所に警告看板を設置してみてもどうか。
- 警告ポスターを作成し、引っ越しの時期に学内に掲示してみてもどうか。
- 構内が汚れているので物を捨てられやすい。常に清潔を保つよう努力しなくてはならない。



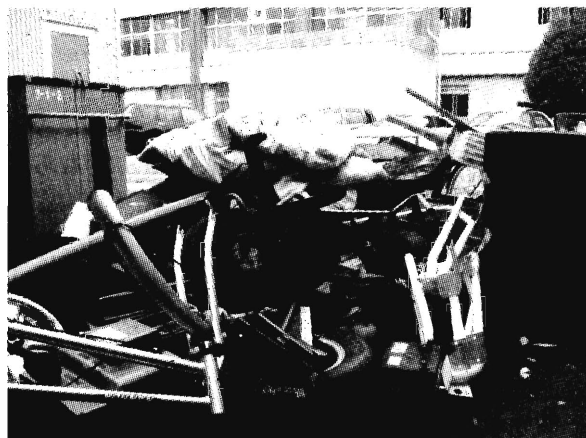
図書館で発見されたスズメ蜂の巣



林の中に放置されていた自転車



外されて放置されていたロッカーのドア



パトロール後集められたゴミ

- パトロールの常習化・継続化が必要ではないか。

Ⅳ. 今後の課題

グループリーダーに報告書を作成してもらい、改めて所内会議で検討しました。

- 今後はひとまず今回特に目についた放置自転車と3, 4月の引っ越しの時期に向けての広報活動にテーマを絞り、関係部局と協力しながらこれらに取り組んでいきたい。
- キャンパスクリーン活動（大学構内を構成員が一斉に掃除する活動）の際、参加者に協力を求めたい。
- 蜂の巣についてももう少し早い時期にパトロールをしたい。装備を揃え、巣の駆除をしながらパトロールできれば効率的である。（スズメ

蜂の巣は危険だが)

＝謝辞＝

インタビューとパトロールにご協力いただいた保健環境センター職員みなさまに心よりお礼申し上げます。

(参照)

グループ1：○渡邊賢司，羽瀨脩躬，鏡山典子
グループ2：○荒武幸代，糟谷幹彦，岩佐 智， 和田花奈
グループ3：○亀山重人，岡田暁宜，兵藤利和， 櫻井敏雅
グループ4：○中島 浩，久永直見，武内 勲， 榎原洋子

○：リーダー